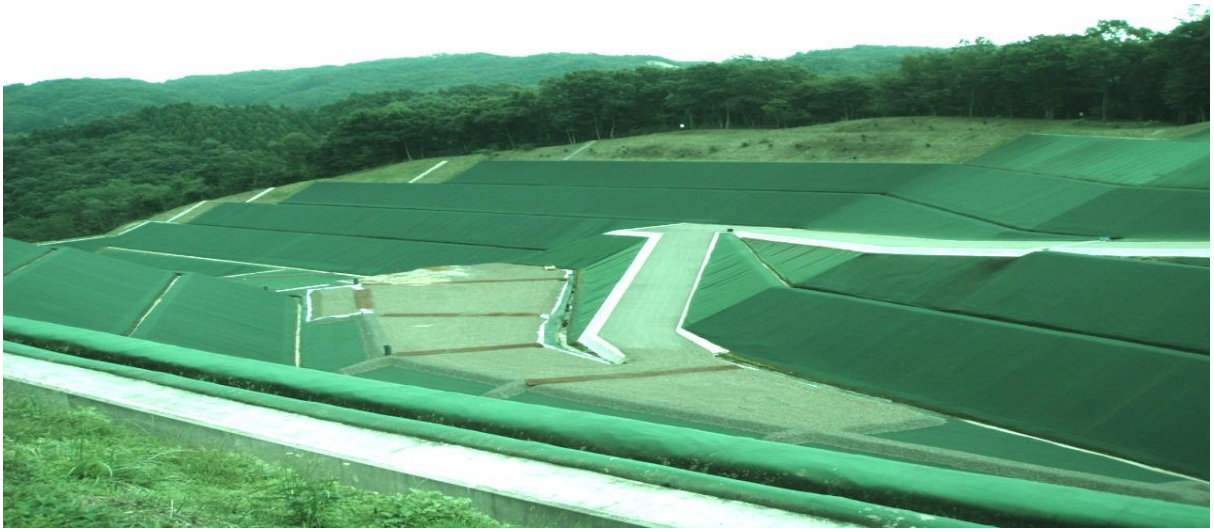
2023年度

環 境 経 営 レ ポ ー ト

2023年度版（対象期間：令和5年9月～令和6年8月）



今回発行： 2024年 10月 31日

次回発行： 2025年 10月（発行予定）

株式会社 商報舎 坊主滝事業所

目次

1　環境経営方針

2　組織の概要

3　対象範囲

4　環境経営目標

5　環境経営計画

6　環境経営目標の実績

7　環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容

8　環境関連法規への違反、訴訟の有無

9　代表者による全体の評価と見直しの結果

株式会社　商報舎

環　境　経　営　方　針

＜基本理念＞

株式会社　商報舎　坊主滝最終処分場は、福島県中心部にあり立地条件も良く、事業活動するにも申し分ない場所です。環境に配慮した美しい社会活動に貢献します。

＜行動指針＞

1，環境関連の関係法令及び公害防止協定等を尊重し環境保全に努めます。

2，受託する産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることで、リサイクルの向上に結びつけていきます。

3，二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の抑制に努めます。又、搬入車両に二酸化炭素排出量の抑制を促します。

4，環境目標を定め、継続的に改善活動を行います。

5，関係官庁・団体及び地域社会とのコミュニケーションを図り、共生を推進します。

6，社員及び常駐の関係者に環境方針・環境目標を周知させるとともに、公開します。

7，環境方針の定期的な見直しを行います。

制定　　平成23年12月　1日
改訂　　平成30年　9月　1日

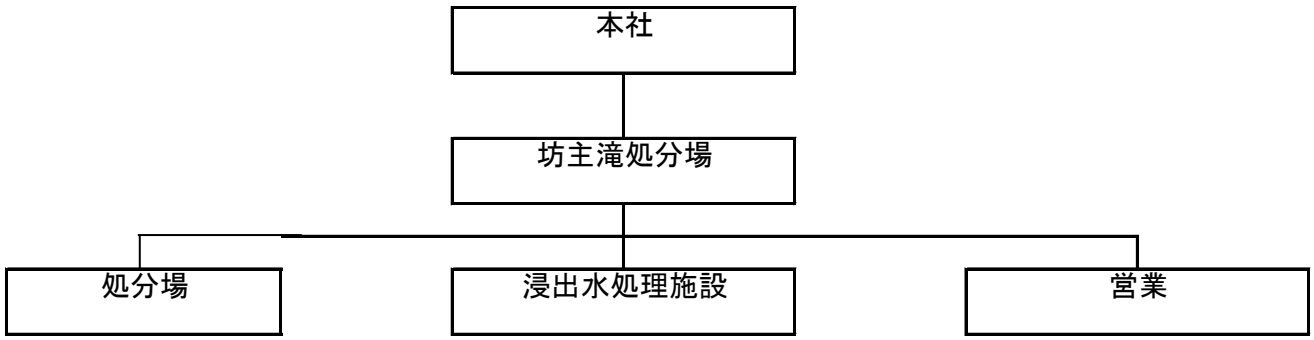
株式会社　商　報　舎

代表取締役　佐藤丈彦

2 組織の概要

(1)事業者名及び代表者名
株式会社 商報舎　　代表取締役 佐藤 丈彦

(2)会社の組織図



(3)事業活動の内容
・産業廃棄物の管理型最終処分場の運営

(4)所在地と連絡先(担当者)
事務所・処分場　福島県二本松市坊主滝7番地1
連絡先(TEL・FAX)0243－23－5133
環境管理責任者　柳澤 学
連絡担当者　鈴木 秀樹

(5)事業の規模

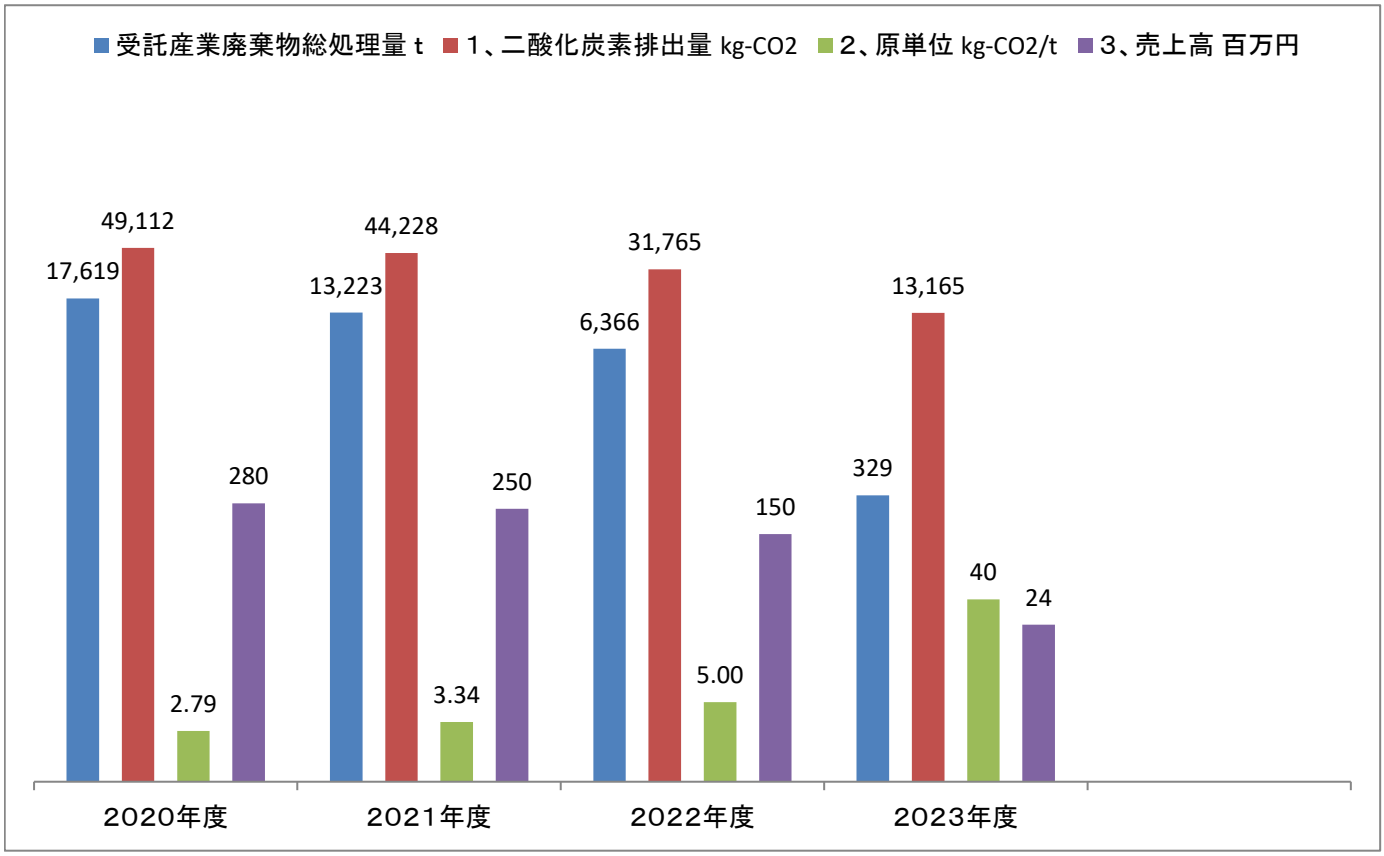
創業　昭和16年11月　　資本金　1,000万円

平成19年　3月　第3処分場竣工

売上高と従業員数

項目	単位	年 2020年度 20/9～21/8	2021年度 21/9～22/8	2022年度 22/9～23/8	2023年度 23/9～24/8	
1、二酸化炭素排出量	kg-CO2	49,112	44,228	31,765	13,165	
2、原単位	kg-CO2/t	2.79	3.34	5.00	40	
3、売上高	百万円	280	250	150	24	
4、従業員数	人	11	11	5	5	
5、総処理水量	㎥	13,716	18,406	15,793	17,810	
6、降雨量／年	mm	869	1,047	868	1,056	

項目	単位	年 2020年度 20/9～21/8	2021年度 21/9～22/8	2022年度 22/9～23/8	2023年度 23/9～24/8	
受託産業廃棄物総処理量	t	17,619	13,223	6,366	329	
内訳・がれき類	t	2,624	2,094	1,621	64	
・鉱さい	t	5,215	3,419	1,065	0	
・汚泥	t	7,610	5,924	2,850	248	
・金属くず	t	0	0	0	0	
・ゴムくず	t	0	0	0	0	
・廃プラスチック類	t	0	0	0	0	
・ガラス・陶磁器くず	t	2,170	1,786	830	17	



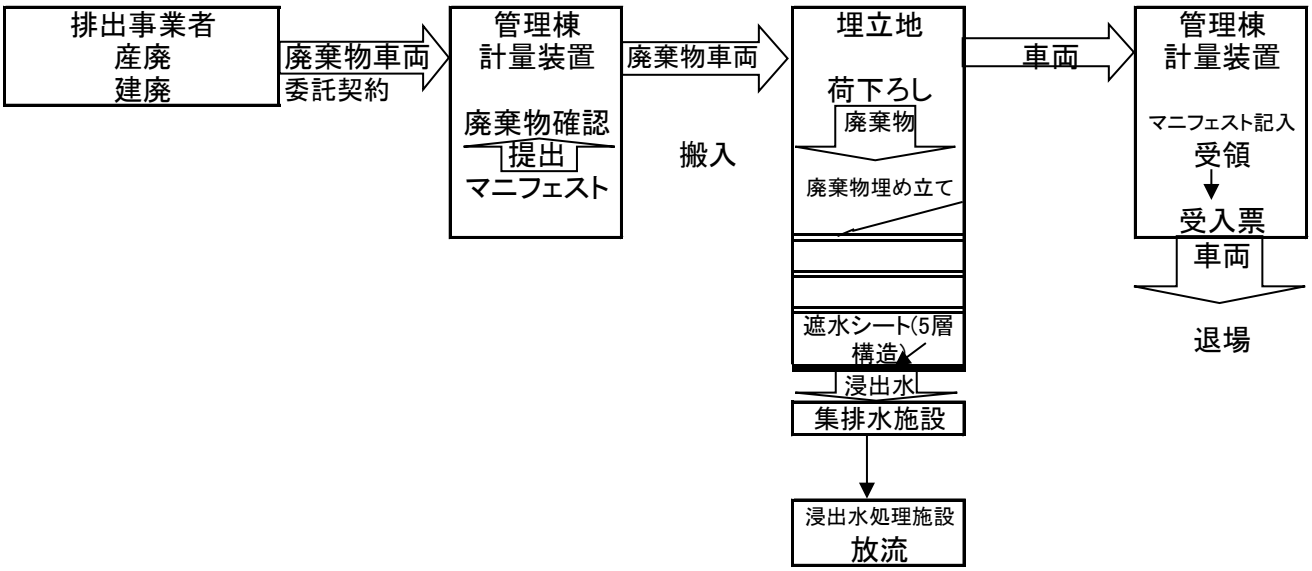
(6)許可の内容

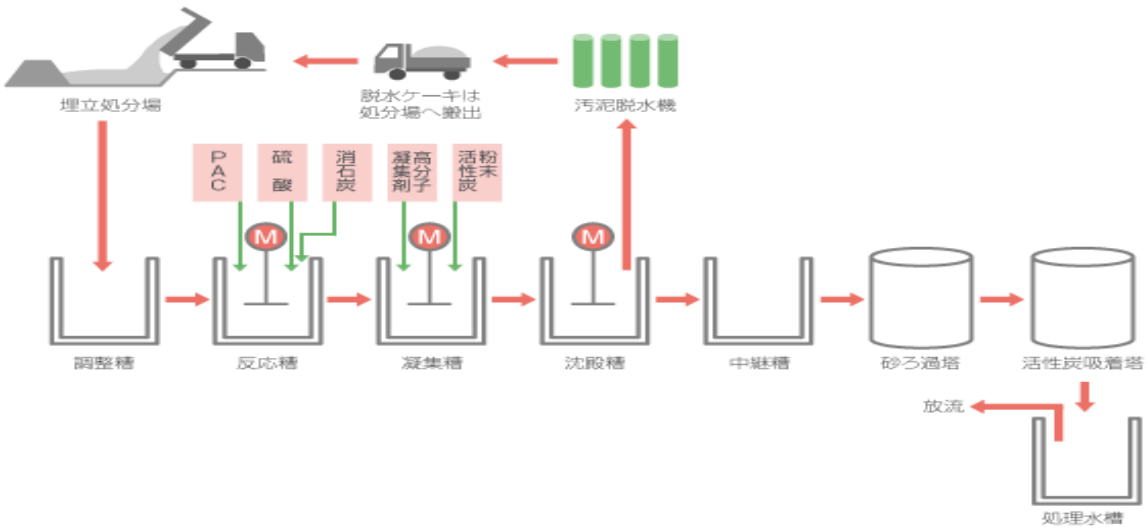
許可番号	第00730018753号
許可年月日	令和6年5月23日
許可の有効期限	令和11年5月22日
事業計画の区分	管理型最終処分場
廃棄物の種類	汚泥、金属くず、鉱さい、がれき類、ゴムくず、プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上7種類。

(7)施設などの状況

1、処理施設の種類　　管理型最終処分場
2、処理する産廃の種類　　(5) 許可の内容に記載
3、処理能力　　埋立地面積　22,395㎡
埋立容量　255,485㎥
残余容量　約2%
4、処理方式　　サンドイッチ工法
5、処理工程図　　下記の工程概略図に示す

処理工程概略図





3 対象範囲

（1）認証の対象範囲
株式会社　商報舎　坊主滝事業所

（2）認証の対象活動
産業廃棄物最終処分業

（3）全組織・全活動について
事業所は全国に6ヵ所あるが、独立して事業を実施している事業所は坊主滝事業所だけである。他の4事業所は、依頼先会社の製造のラインの一部を請け負っている事業内容であり、依頼先会社（二本松事業所は、テクノメタル株式会社。設備保全事業は、テクノメタル株式会社及び株式会社IJTT。東自事業所は、日本通運株式会社。北上事業所は、株式会IJTT）の環境経営マネジメント（ISO14001）の中に組み込まれ環境経営を実施している。
従って、今後、他の事業所において、エコアクション21の認証を所得するスケジュールはない。
尚、本社は、賃貸ビルに入っていて管理費等も含まれている。社員は、2名で半日しか滞在して作業しないことから、環境負荷も低いので本社は含めないこととする。なお、省エネに対しての活動は、実施してもらうようにします。

（4）対象取組期間
環境活動レポートの対象取組期間
2023年9月1日～2024年8月31日

4 環境経営目標

環境方針と環境影響評価の結果に基づき、環境目標を次の通りに定める。

1、二酸化炭素排出量の削減

2、廃棄物排出量の削減

3、総排水量の削減

4、化学物質使用量の削減

5、グリーン購入の推進

6、社会貢献活動への積極的参加

7、再資源化の提案

以上の環境目標の達成期限は、令和4年8月とする。すなわち毎年見直しを行います。

（1）主な環境負荷の実績
2023年9月1日～2024年8月31日の当社における主な環境負荷の実績は、下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量（kg-CO2）				
電力（係数0.476）	灯油	LPG	ガソリン	軽油
9,701	620	9	2,835	0

＊令和2年度、東北電力㈱のCO2排出係数0.476（kg−CO2/kWh）を使用。

使用量（m^3）	廃棄物排出量（t）	
水使用量	一般廃棄物	内部処理量
14	0.080	32.41

（2）環境経営目標（短期・中長期）の設定

昨年度まで、中長期の5年間が終了したので新たに環境経営目標を見直しを行った。基準年を2021年度にし、新たな環境経営目標（短期・中長期）の設定をした。

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排出量の必死3項目並びに自主設定項目について、単年度目標並びに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2023年度(R5.9～R6.8)	2021～2025年度 （令和3年度～令和7年度　5年間）
二酸化炭素排出量	基準年度の0.9%年削減	2025年度までに2020年度実績の排出量1.5%削減を目指す。
廃棄物排出量	基準年度の0.9%年削減	2025年度までに2020年度実績の排出量1.5%削減を目指す。

	単年度目標	中長期目標
	2023年度(R5.9～R6.8)	2021～2025年度 （令和3年度～令和7年度　5年間）
総排水量（水使用量）	基準年度の0.9%年削減	2025年度までに2010年度実績の排出量1.5%削減を目指す。
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目（①PAC②10%硫酸③消石灰）使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	グリーン購入を推進していく	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入路の整備等	搬入路の整備等
再資源化提案の推進	1件	2025年度までに3件を目指す。

（3）2023年度（取組対象期間）環境経営目標値

(2)の考え方に従って2020年度実績を基に、2023年度（R5. 9～R6. 8）の具体的目標値を下記のように算出しました。

	2020年度実績（基準年） （2020. 9～2021. 8）	2023年度目標(基準年度排出量の0.9%減) （2023. 9～2024. 8）
二酸化炭素排出量		
1）電力	10,497kg-CO2	10,403kg-CO2
2）灯油	1,118kg-CO2	1,108kg-CO2
3）LPG	19kg-CO2	19kg-CO2
4）ガソリン	3,299kg-CO2	3,269kg-CO2
5）軽油	33,230kg-CO2	32,931kg-CO2
廃棄物排出量		
1）一般廃棄物	106kg	105kg
2）内部処理量	22.84t	22.63t
総排水量（水使用量）	49㎥	49㎥
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目（①PAC②10%硫酸③消石灰）使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	1、事務用品	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入道路の整備	搬入道路の整備
再資源化提案の推進	1件	1件

※2020. 9～2021. 8　廃棄物処分量　17,619t
※2023. 9～2024. 8　廃棄物処分量　329t

5　環境活動計画

（1）　二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減

◆ 室内温度は、冷房時28℃、暖房時は、20℃の設定にする。
◆ 電気製品の買い替えの際は、省エネタイプの機器を選定する。
◆ 昼休みなど、不要な照明を消灯する。
◆ 席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ。
◆ 電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る。

② 灯油使用量の削減
◆ 室内温度は、暖房時20℃の設定とする。
③ ガソリン・軽油使用量の削減
◆ エコドライブの徹底。
◆ 車両入替時は、エコカーを優先して購入する。
◆ 無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る。

（2） 廃棄物排出量の削減
① 一般廃棄物
◆ 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする。
◆ 外部からのゴミはなるべく持ち込まない。
◆ 両面コピーや縮小コピーの励行。

② 産業廃棄物
◆ マニフェストをもとに適正な処理を行う。
◆ 産業廃棄物の再資源化に取り組みリサイクル率の向上を図る。

③ 排水量（水使用量）の削減
◆ 洗車時や手洗い時など水をだしぱなしにしない。
◆ 手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底。
◆ 水処理施設からの排水量の削減

④ 化学物質使用量
◆ 化学物質使用量の適正管理に努める。

⑤ グリーン購入の推進
◆ エコマーク製品などの環境配慮配慮製品を積極購入する。

⑥ 社会貢献活動の推進
◆ 地域の清掃活動等に積極的に参加する。
◆ 搬入路などの道路整備、草刈り等の実施。

⑦ 再資源化提案の推進
◆ 産業廃棄物の再資源化の提案を推進する

※ 自主提案
浸出水の排水の水質管理
社内で、排水基準を設けて適正に管理する。

	県条例	二本松市条例	社内基準
PH	5.8～8.6	5.9～8.1	5.9～8.1
BOD	25	20	17
COD	25	20	17
SS	70	40	20
油分	5	5	3

6 環境目標の実績 （2023．9～2024．8）

対象取組期間における環境目標の達成状況は下記に示すとおりです。

（1） 二酸化炭素排出量
① 全体（目標：0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	48,163	47,730	13,165	-34,565	-73

コメント 全体的にみると、大幅な削減が出来た。主な要因としては、軽油の使用量が無かったことからこれだけ削減出来た。

② 電力使用量（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	10,497	10,403	9,701	-702	-8

コメント 今年も、猛暑で使用量が増えるかと思ったが、削減出来たので良かった。

③ ガソリン使用（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	3,299	3,269	2,835	-434	-14

コメント　エコドライブを周知徹底したおかげで、目標数値を達成することが出来た。

④ 軽油使用（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	33,230	32,931	0	-	-

コメント　搬入量も、大幅に制限したことで重機の稼働時間も減り、軽油の使用量もなかった。

⑤ 灯油使用（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2022年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	1,118	1,108	620	-488	-45

コメント　温度管理徹底したことで、達成できた。

⑤ LPG使用（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2022年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	19	19	9	-10	-53

コメント　冬期期間中しか使わないが、節約出来たので良かった。

（2） 廃棄物排出量

① 一般廃棄物（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg	106	105	80	-25	-25

コメント　一人一人が、意識して行動してくれるので削減に繋がったと思う。

② 産業廃棄物　内部処理量（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
kg	22,840	22,634	32,410	9,776	42

コメント　昨年度より雨量も多かった事もあり、処理施設の稼働も多かったので増加に繋がった。

（3） 総排水量・水使用量

① 水使用量（目標0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2023年度実績	削減量	削減率 %
m^3	49	49	14	-35	-71

コメント　大幅な削減が出来た。今後も、達成出来るように協力し合っていきたい。

② 排水処理施設の処理水量（0.9%削減）

	2020年度実績	2023年度目標	2022年度実績	削減量	削減率 %
m^3	13,716	13,593	17,810	4,217	30

コメント　昨年度より雨量も多かったので、排水処理施設の稼働時間も多かったので増加になった。

（4） 化学物質使用量の削減

PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目（①PAC②10%硫酸③消石灰）使用している。但し、処理工程は決められており自らの判断で削減することは出来ませんが化学物質の適正に管理していることを定期的に確認します。

（5） グリーン購入

2023年度は、事務用品など多数購入しました。

（6） 社会貢献活動

搬入路の整備や冬期間の除雪を実施した。夏季には、搬入路の除草作業、道路の整備を実施した。

ボランティア活動、搬入路のゴミ拾いも実施した。

（7） 再資源化の提案

1件の再資源化の提案をしました。

7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容

（1） 環境活動計画の取組状況の評価

○･･･十分に取り組んだ △･･･ある程度取り組んだ ×･･･取り組み不十分（未実施） ー･･･評価保留

取組項目			
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	◆室内温度は、冷房時28℃、暖房時20℃の設定とする	△
		◆電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	－
		◆昼休み等、不要な照明を消灯する	○
		◆席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ	○
		◆電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る	○
	灯油使用量の削減	◆室内温度は、暖房時20℃の設定とする	○
	ガソリン・軽油使用量の削減	◆エコドライブの徹底	○
		◆車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する	－
		◆無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る	○
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	◆分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○
		◆外部からのゴミはなるべく持ち込まない	△
		◆両面コピーや縮小コピーの励行	○
	産業廃棄物	◆マニフェストをもとに適正な処理を行う	○
		◆受託産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることでリサイクルの向上に結びつける	○
排水量（水使用量）の削減		◆洗車時や手洗い時など、水を出しぱなしにしない	○
		◆手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底	○
		◆水処理施設からの排水量の削減	△
化学物質使用量の削減		◆化学物質使用量の削減及び適正管理に努める	○
グリーン購入の推進		◆コピー用紙等のグリーン購入の推進	○
社会貢献活動の推進		◆地域の清掃活動等に積極的に参加する	○
		◆搬入路などの道路整備、草刈り等の実施をする	○

（2） 次年度の取組内容（方向性）

本年度、未達成部分について、再度、取組をしていく。また、本格的な取組の方向性については、本年度末（R6．8）以降、代表者の見直しを経て来年度の取組の方向性を決定します。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

現在まで、環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。

また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの訴訟についてもありません。

９　代表者による全体評価と見直しの結果

今年度1年間の取り組み状況を総括してみると、CO2削減は大幅に削減出来ました。

主な要因としては、受託する産業廃棄物を制限したことで重機の稼働率が大幅に減少しました。

それに伴い、軽油の使用量も基準年に比べ大幅に減ったことで全体的なCO2排出量も削減に繋がったと思います。

また、項目別（電力、ガソリン、灯油、液化石油ガス（LPG））に見てみても、基準年を下回る数値となりました。これも、従業員一人一人が節電・節水・削減のエコ意識を持って活動に取組んでくれているおかげだと思います。

来年度も、さらにCO2排出量を抑制出来るように社内でPDCAサイクルをまわし、結果に繋げていきたいと思います。